

（ほんわか） 短歌

中高年 銭湯二みで脱衣室 袋指で脱衣まとめる (5/4月)

主食たべ 来たらないと 催着す じませんべいや菓子パンなど

この頃は 有り治療 見直して 磁石をはりて かなりの効果

わが家族 検査の数値 念頭に 我の飲み食い 配意のことは

この頃は 胃腸の調子 弱り勝ち 不調の時はいつも食心過ぎ

人間は いち皆んなに合れる 自由に生きて 八十路を越えて

人間は 我も含めて 変なものを 余分に食べて やせるおくり (5/4月)

“ “ “ 家では食はず 外で食べすぎ

“ “ “ 寒くても思習 暑くても思習

日頃より 美食にこぼと 入院時 病院食が ますます困る

この頃は 坐る習慣 多過ぎて 尻の重みで 湿疹となる

“ フロット洋食 胃に合はず 若い時代が うらやましくて

のら猫は いつもやせて 身軽そう 人は食べすぎ 贅のきらい

病院で つらき人々 見渡すと やしはましの 轡を知る

コンビニの 隣りに 餅餌もねたる 大人に見けぬ 猫の知恵